

原油価格の上昇で、ガソリンはもちろん、食料品までもが値上がりしています。一方、日本の食糧自給率は40%を切るまでに！！環境を考え、食料を考える鍵は、農業を産業として発展させること。農業国日本の復活で、資源循環型社会の第一歩を踏み出そう！



シリーズ～環境と経済が両立できる社会を目指そう

～その鍵は、農業にありませんか？～

民主党議員団の県会・市会の政策協議会において、「環境部会」が立ち上げられました。地球温暖化、循環型社会に向けた取り組みを、地域のレベルで調査・検討し、政策提言と同時に市民に発信していこうというもの。私、川原田が副部会長を拝命し、「環境と経済が両立する社会の実現」を目指して、より一層がんばって取り組んでいきたいと思っています。関連して、第3回市会での産業振興局への質問内容などをご紹介します。

Q：残留農薬や重金属の検査について

中国産野菜の安全性が問題となって消費量が減ったと聞きますが、残留農薬の検査や、特に輸入品についての重金属の検査等の状況は？また、市の検査結果の違反例をみると、逆に輸入品が少ないのはなぜ？

A：中央市場の中に、保健福祉局の食品衛生検査所があり指導を行うとともに、毎日、残留農薬検査を含む食品の抜き取り検査を行っている。輸入品は、輸入時に国の検疫所で抜き取り検査が行われ、残留農薬等の検査に加え、鉛・水銀・カドミウム・ヒ素などの重金属の検査も実施される。違反時には、水際で廃棄・積戻し処分が行われるため、市の検査で違反が少ない。

Q：環境農業規範（GAP）について

昨年5月に、農業と農産物に関して、農業の残留基準が定められ、ポジティブリストと呼ばれて管理されています。昨年春から、農業を使った量や期間を生産者が記録して管理するこうべ版GAPが始まりました。状況は？

A：「こうべ旬菜」づくりの実績を活かして生産者がルール作りをまとめ、「こうべ版GAP」とし、西区伊川谷町の野菜生産者グループが策定したGAPを第1号として認証した。こうした取り組みを後押しし、農業を使わない新しい技術を支援する、「環境負荷低減技術導入チャレンジ事業」を行っており、伊川谷のグループが蒸気で土を消毒する機械を導入する予定。

GAPについては、後で解説しています

神戸市唯一の道の駅「淡河」(おうご)をご紹介します！！



「道の駅 淡河」

垂水から40分

道の駅「淡河」は、国道428号線を箕谷から吉川へと北上する途中、県道38号線との交差点にあります。垂水からドライブを楽しむなら、布施畑～木見東右折～六甲国際GC横～坂本左折～つくはら湖横～御坂東右折のコースがお奨めです。

開館時間 10:00～17:00
水曜日定休(レストランは無休)
レストランの10割そばは、地元、淡河産のそば粉100%使用。



道の駅「淡河」で買ってきました。右は青汁で有名になったケール。

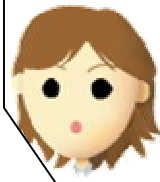
地元産のハム(北区「山垣畜産」)、地元の農家の皆さんで作っているお味噌(「北神みそ」)、黒豆の納豆(「勝雄の小粒黒豆納豆」)。また、淡河地区は、神戸市内でも有数の米作りの盛んな地域です。淡河産のお米「キヌヒカリ」の他、古代米やもち米などが売られています。他には、トルコキキョウや鉄砲ユリ、チューリップなどの花作りも盛んです。



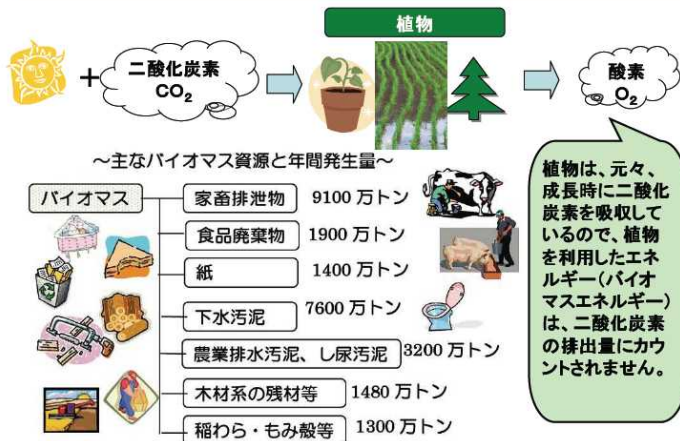
お隣は有名な「豊助饅頭」

バイオ燃料を考えていこう！！

トウモロコシやサトウキビを燃料にするバイオ燃料について、昨年ひろこ倶楽部だより vol. 20 で少し触れましたが、この1年でテレビや新聞で取り上げられ、誰もが知るところとなりました。食料用の作物が燃料用にされ、食品価格を上げているという事実はあるものの、日本では、たくさんの農地が米の生産抑制で遊休地となっています。遊休地となった水田に最も適した作物はやっぱりお米。遊休地を活用して、食用米の1.6倍もの生産量を誇る燃料米を生産することは、燃料資源として、作物を得るだけでなく、水田の環境保全にも役立ちます。バイオ燃料米の生産は、農業振興の起爆剤にも成りうるもの。遊休地での燃料米の生産、後工程としてのバイオエタノール生産に取り組んでみてはどうかという提案を行いました！



資源循環 バイオマスエネルギー



バイオマス先進的事例 バイオ燃料



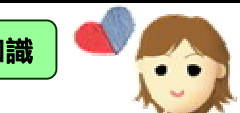
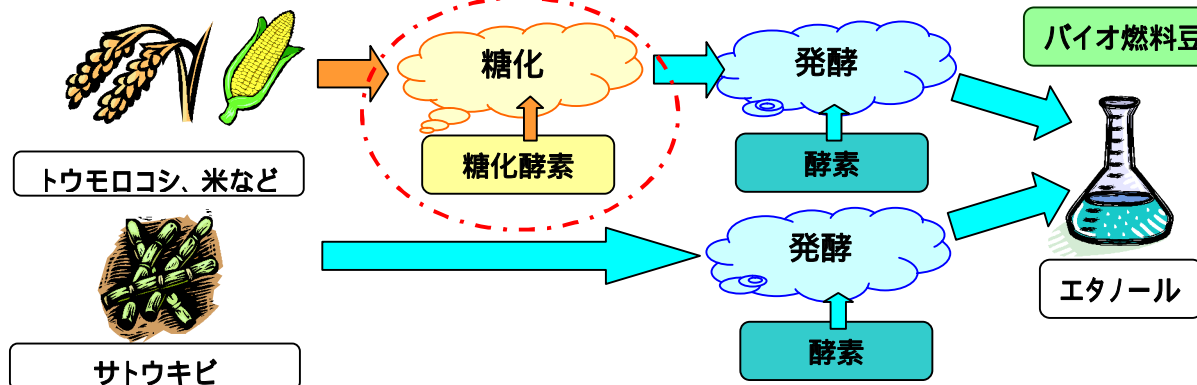
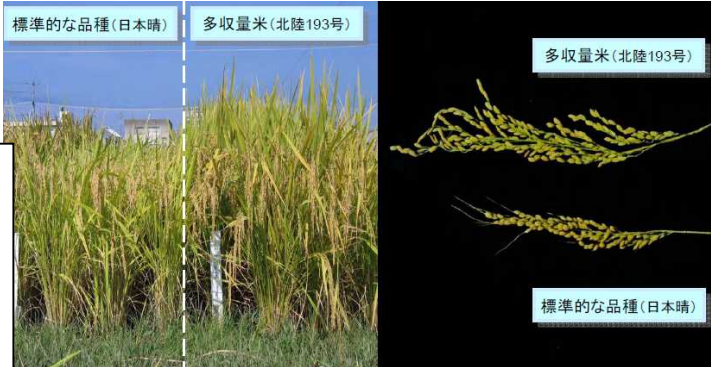
植物を利用したエネルギーは、CO₂排出量にカウントされません。エネルギーとして植物を育てるほかに、現在廃棄物として捨てているものを利用することが考えられています

バイオ燃料には、サトウキビから作ったエタノールをガソリンに混ぜる、更にETBE添加剤にして混ぜる、廃油からディーゼル油を精製するなどがあり、最近国も力を入れています。

Q：バイオ燃料として、遊休地での燃料米生産を考えてみては？

神戸市内には、遊休農地が500ha(1ha=10000m²)あると聞きます。これらの遊休地を活用した、燃料米の生産や、バイオエタノールの生産を、前向きに検討してみるべきと考えますか？

市回答：新潟県では、通常の1.6倍の収量がある、飼料用の米、多収米の生産に取り組んでおり、ガソリンに3%混ぜた混合ガソリンとして県下のJAで販売する計画と聞く。兵庫県でも多収米の試験栽培に取り組んでいる。ただし、主食米がkgあたり250円であるのに対し、燃料米はkgあたり数十円でないコスト面で成り立たず、課題は多い。しかし、取り組むべきものと考え、神戸大学・JAに呼びかけ研究会を発足させたい。



米から作る場合は、サトウキビに比べて、発酵前に糖化させる必要があるなど、今後、技術開発による効率化が求められています。

〒655-0034 神戸市垂水区仲田 3-1-8-202 (垂水支部) 神戸市会議員 川原田弘子事務所
TEL&FAX 078-709-8998
e-mail ; happy@hiroko-club.com
URL ; <http://www.hiroko-club.com>

ご相談はこちらに

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1
民主党神戸市会議員団
TEL 078-322-5844
FAX 078-322-6161